



637



行一班目次

- 海陸道路ノ事
- 田園
- 移住セル内地人ノ事
- 旅店ノ事
- 土匪ノ事
- 亞片ノ事
- 尤モラシキ質問
- 旅中最も不快ヲ感シタル事
- 台湾ノ資産家
- 築港ノ事
- 鉄道布設ノ事
- 臺灣ノ金融機關
- 臺灣ノ外國貿易
- 貨幣流通ノ現況

大正十一年四月
大隈爵邸寄贈

二丁
五丁
六丁
六丁
七丁
一丁
一丁
一丁
一丁
一丁
一丁
一丁
一丁
一丁
一丁

第十五	臺灣市場ニ於ケル貨幣兩替相場ノ事	一九丁
第十六	刻印付一圓銀ノ事	二一丁
第十七	刻印一圓銀ヲ發行スルノ結果	二一丁
第十八	新金貨ノ事	二三丁
	臺灣財産家調	

臺灣紀行一斑

十月十四日東京ヲ發シ十八日神戸解纜二十一日基隆着直
 子ニ臺北ニ赴キ留ルコト三日二十五日臺北ヲ發シ新竹中港
 苗栗台中彰化鹿港北斗雲林嘉義新營庄曾文溪台南安平ヲ
 経テ鳳山ニ至リ打狗港ヨリ乘船シ澎湖島ヲ経テ基隆ニ至
 リ再ニ臺北ニ帰着ス此行陸行百里ニ過キスト並トモ日ヲ
 経ルコト三週間ニ至ル蓋シ道路交通ノ不便ナルニ由ル台
 北ニ留マルコト一週間ニ十三日内地ニ發冷水ニ至リ冷水
 厦門香港間ヲ廻航スル所ノトグラス会社ノ汽船ニ乘リ厦
 門ニ経テ香港ニ至リ内地及廣東ニ留マルコト一週余日ヲ
 二月六日香港ヲ解纜シ上海ヲ経テ同十七日福京ス
 臺灣ノ巡回ノ全庫事務ノ検査視察ヲ主用トセリト並トモ傍
 テ一般ノ景況就中經濟及金融上ノ事項ニ於テ注意ヲ力メ
 夕ニ唯僅々三週間ノ短日時ヲ以テ台湾内地ヲ縦貫シタル
 才故ニ同ヨリ精確ノ材料ヲ致シ仔細ノ觀察ヲ下スヘキ運

十、要スルニ左ニ記スル所ハ旅行日記中ヨリ抄記シタル
 モ、ニシテ旅中日々見聞シタル所ノ一部ニ過キス
 旅中勉メテ臺灣人ノ資産アリ名望アルモノヲ訪問シテ其
 意見ヲ叩キテ之レヲ爲メニ台人ノ我臺灣施政ニ對スル
 意嚮ノ一斑ヲ窺フコトヲ得又其經濟思想ノ程度ヲ略
 知スルコトヲ得タリト並トモ其言多クハ婉曲ニシテ往々
 阿諛ニ類スルモノアリ其真意ヲ知り難カラサルノ憾アリ
 台人諸氏ノ執ニシテ稍ニ取ルハキモ亦掲テテ諸項ノ中
 在リ

第一 海陸道路ノ事

今回ノ台湾旅行ニ於テハ往々ニ陸路ヲ取り還ルニ海路ヲ
 取レリ即チ基隆ヨリ台北ニ經テ新竹ニ至ルマテノ二十余
 里ハ鉄道ニ依リ新竹ヨリ台中ニ經テ嘉義ニ至ルマテノ四
 十余里ハ轎ニ依リ嘉義ヨリ台南ニ至ルノ十英里ハ軍用輕
 便鉄道ニ依リ而シテ台南ヨリ鳳山ニ至ルノ間ハ輕便鉄道
 ニ依ラスシテ海路ヲ取レリ即チ台南ヨリ距ル里許ノ安平ヨ
 リ下ダラズ会社ノ小莖茂ニ乘リ海岸ニ沿テテ打狗港ニ至
 リ更ニ轎ニ依リテ鳳山ニ至ル打狗鳳山ノ間別ニ亦輕便鉄
 道アリ
 基隆ヨリ台北ニ經テ新竹ニ至ルノ鉄道ハ清國政府時代ノ
 布設ニ屬シ我軍政時代ノ修繕ニ係ルモノナリ基隆ヨリ台
 北ニ至ルニ十里ハ平時双方ヨリニ回完發車ニ台北新竹間
 ハ各々一回ニ過キス列車ハ上等下等及貨車各々一台ニ過
 キナルカ故ニ汽船ノ乗着日ニ際シテハ乗客輻湊シ之レガ

基隆新竹
間火車

為ニ毎ニ基隆ニ一日ヲ徒賞シ翌日始メテ台北ニ入ルモ
ノアリ又昨日ヲ以テ台北ヲ登スルモノアリ蓋シ遊氣力ノ
乏シキニ原因スルモノニシテ鉄道ノ搭載力弱キカ為メニ
アラスト古ク若シ貨物ニ至リテハ常ニ基隆ニ堆積シテ台
北ニ到ルヲ得サルモノ往々ニシテ三千箇ノ多キニ達スト
古ク之レカ為メニ商賈ノ苦情多シ
軍政時代ニ於テ基隆台北間ノ鉄道ニ修繕ヲ加ヘタルノ痕
跡ハ一ニノ小墜道ヲ開鑿シタルカ如キニ始メトシテ間々
之ヲ認ムヘシト至ニ同ヨリ目シテ大工事ト為スハカラス
傳ヘ言フ此修繕工事ニ費ス所ノ工費三百七十萬圓ニ上レ
リト此風詭果シテ真ナランカ台湾ノ縦貫線ヲ布設スルノ
工費殆シト幾千萬圓ニ上ルヲ知ルヘカラス蓋シ台湾縦貫
線ニ於テ工事ノ最も困難ナルハ台北附近ニアラスシテ台
中ヲ起點トシ其南北數十里間ニ於テ西流スル所ノ數十河
溪ニ架スル所ノ橋梁費ニ存ズレハハハ

新竹
鐵路

新竹ヨリ苗栗ニ至ル迄ハ山勢峻ニ逼リ本道漸ク海濱ニ沿
フ守備工兵ノ用罄シタル新道路ニ係リテ往々岡丘ニ設行
スト至ニ岡ヨリ崎嶇羊腸ノ雅路ニアラス苗栗ヨリ台中嘉
義ニ經テ台南ニ至ル道路ニ亦同シク守備工兵ノ用罄ニ
係レリ苗栗ヨリ台中ニ至ル間ニ於テモ苗栗ヨリ四十五里間
ハ注々ニシテ台湾中部ヲ北ヨリ南ニ走ル大山脉ノ余波ノ
岡丘トナリテ坦路ニ適ルモノアリト至ニ之ヨリ以南台南
ニ至ル四五十里ハ坦道砥ノ如ク四望皆渺々タル田野ノ曠
ヲ遠ルアルノニ唯到ル所溪流ノ西注スルモノ我何ナラ
知ラス其積大ナルモノヲ舉クレハ苗栗台中間ハ三又流
アリ大甲溪アリ文余ノ岩石ノ出水ニ降シテ上流ヨリ數下
セルモノ相積ミテ河身却リテ南岸ヨリモ高シ唯溪水ノ石
間ニ汗曲スルヲ見ルノニ台中ヨリ嘉義ニ至ル間ハ北斗
ト稱スル小都會アリ此地ヲ狹シ北ニ北斗溪アリ南ニ濁水
溪アリ嘉義ヨリ台南ニ至ル間ハ魚水溪アリ曾文溪アリ皆

河流、猶大ナルモノナリ、殊ニ濁水溪ニ至リテハ、河幅尤モ
廣ク且ツ河底ハ泥土ヨリ成リ、其深サ幾尺ナルヲ知ラズ、鉄
道施設ニ於テ尤モ艱難ナルハ此流ニ架スル橋梁トリト云
フ
數十ノ溪流軍政時代ニ於テ皆仮橋ニ架セリ、亦工兵ノ手ニ
成レリ、今年七八月ノ出水ニ降シ多クハ破壊シ、行人皆洗滌
ス而シテ深サ肩ヲ没スルモノニ至リテ、始メテ渡船アリ
官ノ設クル所ニ係レリ、我一行ノ台地ヲ旅行スルヤ、時偶々十
月ノ末十一月ノ始メニ属シ、暑氣漸ク去リテ、雨期未タ至ラ
ザルノ好時節ニ降セルヲ以テ幸ニ、溪水ノ氾濫セルモノニ
遭ハズ、溪水ノ浅キハ、船ヲ出テ、洗滌スルヲ須キス、其深キ
ニ逢ハハ、渡船ニ依リテ、洗滌スルニ回ニ過キスト、至テ思
フニ、酷暑若クハ、驟雨ニ降セル様行ノ艱難ハ、固ヨリ我一行
ノ比ニアラザルヤ、論ナシ、橋ノ支那ニ於テ見ル所ニ相類シ
ラ之ニ、屋椽ヲ蓋ヒクルモノナリ、清國時代ニ於テハ、橋夫ニ

人之ヲ擔ヲテ常トセリト云ヘトモ、新政府以來内地人、旅
行者ハ、橋夫三人ノ雇フヲ例トシ、二橋夫ヲ以テスレハ、慢
ニ載テ之ヲ擔フヲ肯セス、而カモ重量稍ニ重キ、旅行者ニ於
テハ、四橋夫之ヲ擔フヲ例トス、旧政府時代ニ於テハ、我一里
ニ一橋夫ノ賃銀十銭ナリシモ、今ハ一里概ネ十六銭ニ別
ニ多少ノ酒代ヲ設ス、一日平均十里ヲ行クニハ、未明弁程ニ
テ日没ニ至ル若シ、其路驟雨ニ降セハ、恐クハ七八里程ヲ行
クニ、道キサルハ、シ
輕便鉄道モ亦毎車人夫二人之ヲ推スヲ例トシ、月ニ載セ、星
ニ載クニ、アラザルハ、行程一日十四五里ニ達セ、蓋シ諸所
橋梁落カ、車台ノ河ノ對岸ニ運搬スルヲ、時ノニ、載時間ヲ要
スレハ、ナリ、故ニ一行ノ人数多キニ、隨ヒ日々ノ行程次第ニ
減スレハ、得テ免ル可キナリ
更ニ海路ニ就キテ一言センニ、内地台灣間ノ定期航海ノ外
ニ、台灣沿岸ニ回航スルニ定期航路アリ、一ハ西廻リト稱シ

台湾

基隆より澎湖島安平打狗等ノ西岸港ヲ往來、東岸諸港ニ寄港シテ基隆、掃航スルモノ一ハ先ツ東岸諸港ニ往テ後ニ西岸諸港ニ寄港スルモノ是レナリ共ニ毎日三回ノ航海ニシテ十日間ニ東西諸港ヲ一周スルモノトス皆大阪商船会社ノ特定航路ニ係レリ

台湾ノ沿岸ハ良港ナク概シテ風波多シ就中夏時ニハ東岸暴レ冬時ニハ西岸暴ル打狗港ハ台湾ニ於テ屈指ノ良港ナリ我一行ノ打狗港ヲ登リテ基隆ニ宿ルヤ此日大気晴朗水波起ラズ而モ走航ニ乗リテ本船ニ至ル里許ノ間ニ於テ幾ヒオ白馬躍リニ殆シト舟ヲ覆ヘシ本船ニ入りテ舟々下着テ更ルニ至レリ此船東廻リ、属シ昨日卑南港ニ寄港シタルモノナリ船長云フ卑南港ニ上陸スル乗客貨物少ナクナリシモ風波ノ為メニ走航ヲ停メルコトヲ得ス也ナク乗客貨物ヲ打狗ニ上陸セシメタリ西廻リ流船ノ打狗ニ寄港スルヲ待テ再ヒ卑南港ニ往航スルノ外アラズ此ノ

台湾

第二 田園

如クハ台湾沿岸航海ノ常ニシテ其甚シキニ至リテハ基隆ヲ棄航シタル乗客ノ風波ノ為メニ豫期ノ港内ニ入ル能ハズ船ト共ニ基隆ニ回航スルコトニ固第四回ニ於テ始メテ上陸スルヲ得タリト云フ是レ即十四日間ノ航路ヲ行クニ三十余日ヲ費シタルモノナリ其他澎湖島ヲ登リテ風波ノ為メニ七回島内ニ避難シタル等ノ奇談アリ蓋シ澎湖島内ノ馬港ハ新領地唯一ノ良港ニシテ台湾航海者ノ避難地ナリ埠スルニ台湾ノ海陸共ニ一定ノ時日ヲ以テ豫期ノ旅行ヲ為スヲ得ヌ一ニ風雨其他天候ノ如何ニ由ル

試ニニ台湾ヲ横分シテ三トナストキハ北部ハ茶末及樟腦ヲ中部ハ木炭樟腦ヲ南部ハ木炭砂糖ヲ産ス中央山脉ノ西側地方ニ於テハ北端ヨリ南風山ニ至ル間ノ百十里間一望皆田園ニシテ荒原ノ未タ開拓セザレサルモノヲ見ス基隆ヨリ台北ヲ經テ新竹ニ至ル間往々平野ヲ遠ルノ岡丘アリ

ト至ハ山腹ヨリ頂上ニ至ル迄尽ク植ケルニ茶ヲ以テシ寸
地ノ荒廢ニ附セテレタルヲ目撃セズ
台湾ノ經濟ノ現ニ茶其他農産物ニ依リテ主トモ其程度
ハ農業時代ノ幼稚ナルモノニ屬ス北部ト至テ概ネニ毛作
ニシテ中部以南ハ三毛作ヲ以テル所ナラズ灌溉ノ便到
ル處ニ之レアリ如アルニ氣候農業ニ適シ地味亦肥沃ナル
コト此ノ如シト至テ收穫スルノ數量略々内地ノ一毛作ニ
同シキモ、何ゾ其然ル所以ノモノ主トシテ清末官民共
ニ農事改良ニ意ナク只管天然ノ地味ニ依賴シテ南ニ肥料
ヲ下ササルニ由ルト云フ要スルニ生計ノ程度低クシテ生
存競争ノ必要ナク懶惰凡ヲ爲シテ逸樂是レ事トスルモノ
即チ農業ノ未ク大ニ進歩セサル所以ナルカ
耕耘ニハ概ネ水牛ヲ使役ス農家ニシテ水牛ヲ畜ハサルハ
罕ナリ故ニ田園ノ区畫之ヲ内地ニ比スレハ稍々廣大ニシ
テ所謂ル歐洲ノ大農法ニ近シ

農民
移住

台湾ノ耕作ハ内地ニ比スレハ粗ニシテ大ナリ故ニ其田園
ノ廣キニ比シテ人カヲ要スルコト割合ニ少キノ状アリ人
或ハ台湾ノ面積九州ニ同シキニ拘ハラズ人口ニ於テハ其
二分ノ一ニ過キサレテ輸據トシテ以テ内地人三百万ヲ移
住セシムルニ足ルヲ説クモノアリ然レモ茶蔗菓實ノ耕作
ノ如キ少許ノ面積ヲ要スルニ過キサレズハ、イザ知ラズ
満目ノ原野早クハ熟田トナレル台地ニ向ツテ多数ノ内
地農民ヲ移サントスルニ加キテ恐ラクハ失計ニ屬セン抑
台湾ヲ内地化セントセム數多ノ内地人ヲ移住セシムルヲ
必要トスルハ勿論ナレトモ更ニ一面ヲ顧ミレハ台地ハ
農民ノ移住ヲ容ルルノ余地ナキニ似タリ知ラズ當局者如
何ナル種類ノ内地人ヲ台湾ニ移住セシメントスル乎
第三 移住セル内地人ノ事
台地ハ勿論台南新竹台中嘉義等ヲ如ノトシ苟モ野廳以下
ノ政廳アリ旅團以下ノ守備隊アルノ地ニハ必ス多少ノ内

地人アリ然レトモ一ニ茶業若クハ梅胚業ニ従事スルモノ
、外ハ或ハ總督府ノ受合業者クハ内地人向キノ推賞ヲ蒙
ル等ニシテ未ダ曾テ台湾ニ永住スルノ目的ヲ以テ一處ノ
營業ニ従事スルモノアルヲ見ス今日ノ台湾ニ在ル内地人
ハ多クハ皆ニ千金万圓ノ台湾費ノ余澤ニ浴スルモノナリ
是レ移民民ニラスシテ出稼人ナリ

第四 旅店ノ事

台北ヨリ台南ニ至ル間ニ於テハ五里若クハ七里ニ隔テハ
或ハ守備十隊アリ或ハ憲兵屯營ナリ或ハ巡查派出所アリ
凡ソ此教者ノ一アレハ亦必ズ旅店アリ旅店ハ内地人ノ家
ハ所ナレバ皆台人ノ旧家屋ニ属シ内地ノ所謂ハ木賃宿ニ
劣ラハルモノハ罕ナリ夜具ナク戸障子ナク屋根壊レテ屋
先坐ニ落ツルノ奇景ハ台湾内地ノ旅宿ニ於テ多ク之ヲ見
ル旅人ノ台湾熱ニ罹ル一大原因也ニ在リ

第五 土匪ノ事

土匪ノ事

土匪ニ二種アリ一ハ強盜若クハ草賊ノ類ニシテ一群少キ
モ十人多キハ五六十人ニ至ル昨中ニ台人ノ内地人トシテ
別ヲ置カス際ノ乘スヘキアレハ旅人ヲ殺害シ住家ニ侵入
シテ只管金銭茶財ヲ強奪スルヲ目的トス冬期ノ農隙ニ際
シテ此類草賊ノ出没漸ク多キヲ如フト云フ旅人曰ク台人
ヲ擧テ皆盜心アリト此説可ナルカ知シ
然レバ亦別ニ多少狡猾上ノ意味ヲ有スル土匪アリ昨今台
北ヲ距ル遠方ニ於テハ金包里及冷水附近ニ出稼スル土匪ノ
如キ其一ナリ
茶商李春生ハ散髪ニテ洋服ヲ着ク少シク美給ヲ解シテ洋
人ト取引スルヲ業トス觀先ノ者ノ昨年我内地ヲ旅行シ制
度文物ノ繁然ハルヲ嘆賞シテ惜カク自ラ清國ノ良民ト稱
ス現ニ清國ノ懸賞ヲ得テ氏土匪ノ事ニ就テ曰ク旧政府時
代ニアリテモ姓ノ土匪ナキニアラズ然レバ是ハ多クハ子
女ノ爲メ春衣ヲ購ハシムル爲メ又ハ元旦一日ノ饗飲ニ資シ

シカ島ノ金銭家財、指奪スルモノニシテ其詳多クモ二
三十人ニ上ラズ之。今日ノ所謂土産ニ比シテ其詳多クモ二
然ルニ新政府ノ新夕ニ林政ヲ有クモ其ノ山林ノ伐採
ヲ禁セリ台人ノ薪炭業ニ從事スルモノ之レカ為ノ其業
ヲ失ヘリ旧政府時代ニ在リテハ砂金業ニ本食スルモノ故
万台湾ノ一大産業ニ属セリ然ルニ今ヤ鑛法ノ手続ノ煩多
ニシテ容易ニ其採掘ヲ許可セス之レカ為ノ湖口ニ苦シ
トモノ多シ採炭業亦然リ思フニ政府ノ意或ハ内地ノ金坑
炭山ヲ保護スルカ為ノ台湾ノ金炭業ヲ禁止スルニ在ル
ニアラサル乎台民巴ニ其職ヲ失ハ鐵死ノ境スル此ノ如キ
アルニ至リテハ土匪ノ起ル蓋シ故ナキニアテム余ハ其採
掘權ヲ内地人ニ許可スルト台人ニ許可スルトヲ同ハス連
ニ其採掘ヲ許可シテ台人ニ職業ヲ与フルノ意置ニ出ラシ
コトヲ望ムト

新竹、鄭如蘭、新竹縣ノ資産家ナリ備ヲ以テ世ニ主キ地

主ニシテ樟腦業ヲ兼ス我一行ノ氏ヲ勸フヤ其甥鄭某亦坐
ニ在リ於樟腦ノ事ニ及フヤ其詳々トシテ劉銘傳ノ樟腦保
護法ノ至レルヲ説キ更ニ正色厲声シテ曰ク今日ノ弊ハ内
地人ノ新夕ニ来リテ樟腦業ニ從事スルモノ樟腦ヲ樟腦油
ニ混和シテ納稅ヲ逋脱スルニ在リ蓋シ樟腦油ハ百斤三四
板ニシテ樟腦ハ百斤十四板ナリ台人ハ言語通セス邦人ノ
如ク脱稅ノ事ニ巧ミナルヲ得スト其結ル所詳カナラスト
至リ新政府ニ対スル意中ヲ窺フヘシ

誤解

李鄭ニ氏ノ統率克スルニ誤解ニ属ス而シテ斯ル誤解ニ属
スニ至リタル所以ハ他ナシ台湾ノ政務今日方ハ草創ニ
属シテ事務故快ク欠キ加フルニ言語相通セサルカ為ノニ
上情下通セズ台民ノ官廳ニ對スル多クハ或ハ誤解ヲ下シ
或ハ誤心ヲ抱カサルハナシ而シテ下民ニ至リテハ政令一
ニ内地人ニ利ニシテ台人ニ不利ナラカキ惡感情ヲ抱ク
モノ多キカ如シ

旅中
危地

一日台中ノ吳警備ト相話ル談、台湾統御ノ事ニ及ヒラ氏曰ク施設ニ於テ尤モ急ナルモノ三アリ言話ノ一致ヲ計ル一、訴訟ヲ迅速ナラシムルニ、匪片ヲ禁スルニ三ト蓋シ言話相通セス者メニ上情下通セス下情上達セサルモノ台民ノ新政ニ誤解疑念ニ抱ク最大原因ニシテ政治的土匪ノ起ル所以本意ニアル歟

強盜ヲ以テ目スヘキ土匪ハ台北ヨリ台中ニ至ル注未類繁ノ間ニ除クトキハ猶ホ白昼ニ出没シテ旅人ヲ悩マシ民衆ニ襲撃スルコト多シ我一行ノ南進スルニ降シテモ總督時ニ一行ヲ護衛スヘキヲ各縣ニ命令シタレトモ一行固ク辞シテ度ケス空手ニ以テ奉ニ逆事ニ台南ニ至ルヲ得テ官人寧コ一行ノ能ク奇禍ニ罹ラザリシヲ怪メリ

台中ヨリ嘉義台南ニ経テ鳳山ニ至ル間ハ土匪ノ北渡尤モ多シ我一行通行ノ前後ニ於ケル或ハ巡查斬テ去ル所無クハル并務署長着護長ノ投害セラレシ

旅中
危地

官人ノ注未スル多クハ皆憲兵又ハ巡查ノ護衛ヲ附セサルハアラズ知事然リ警部長然リ士官亦然リ偶ニ士官ノ轎ニ乘リ騎馬ノ憲兵其前後ニ護衛スルモノト途ニ相逢ヒ少クニシテ又一商旅ノ軍兵ナルモノト相逢フヤ一行ノ中ニ載ルモノアリ曰ク匪人ニシテ護衛アリ而シテ商旅ニハ此保護ナシ是レ恰モ難船ニ降シ船員先ツ輕網ニ移ルト曰シト軍人ニシテ護衛ヲ受スルノ一事以テ土匪ノ狙ニ出沒限リナキヲ知ルニ足ル商旅白昼大街道ニテ危險ナクシテ通行シ得サル間ハ台湾ノ奔達期シ難カルヘシ

土匪ニ関スル奇話多シ一ニテ左ニ奉ケン

或人曰ク台湾ニ於テ土匪ト良民ノ區別ナキコト猶ホ支那内地ノ如シ例ハ一農夫ノ水牛ヲ殺シテ糝ルアル偶ニ一旅人アリ農夫其敵ニ易キヲ見テ鞭ヲ揮フテ之ヲ追ニ殺シ其財ヲ奪フ別ニ一人ノ此状ヲ窺フモノアリ農夫ノ水牛ヲ奪テ、旅人ニ告スルノ處ニ乘シテ水牛ヲ奪ヒ去ル云々台

土匪
奇話

地此種、盜賊甚多シ而シテ世人之モ併セ稱シテ土匪ト云フカ如シ然レハ宿ニ克ク爲シテ深ク山中ニ潛居シ出テ、良民ニ強奪シテ衣食スルノ土匪ニ至リテハ其出沒測リ知ルヘカテス其謀謀シ難キハ旧政府ノ一大深憂ヲ爲セリ此種ノ土匪多クハモルセル銃ヲ携帶シ尤モ狙撃ニ長シ又巧シニ陣ヲ布キテ襲撃ス賊ニ長アリ少クモ數十名ノ子分ヲ率ヒ終身皆盜ヲ業トスレバ往々ニシテ其子分ノ能ク巴ヒニ事ハテ忠実ナルモノヨリ擢テ、之ニ恒産ヲ與フルコトアリ其法極メテ單簡ニシラ且ツ殘酷ニ極ム例ハ、民衆ニ侵入シテ其父子眷族ヲ殺害シ其妻ト財産トニ奪テ之ヲ其子分ニ與フルカ如キ是ナリ山中ノ村落ニ至リテ此奇禍ニ罹ルモノ今猶ホ之レアリト云フ要スルニ台湾ノ土匪ニハ政治上ニ不平ヲ抱クニ依リテ起ルモノト他ノ只管掠奪ヲ事トスルモノトノ二種アリ之ニ

處スルニ於テ亦必ス其道ヲ因フスヘカヲサルモノアラシ

第六 亞片ノ事

地租及亞片和代ハ台湾ノニ大稅源ナリト並トモ本年ノ實績ニ徴スルニ實収スル所豫算ニ達セスト云フ其然ル所ニ原因ニ因シテハ台湾當局者必ス精確ノ報告アラズ茲ニ暫スルノ要ナシト並ニ我一行ノ台人ト相詰ルヤ於多クハ亞片ノ事ニ及ハサルナシ台人ハ上流人ト並ニ多クハ亞片ノ取締法ニ對シテ不平アルニ似タリ以テ爲テク新政府果シテ亞片ヲ以テ人身ニ大害アリトセン何爲レゾ之ヲ嚴禁セリルヤ一面之ヲ大害視シテ一面ニハ無上ノ歲入トナス其輸入製造販賣ヲ政府ニ專有シテ之ヲ貴賣スルモノハ名ヲ有害ニ籍リテ其實利ヲ謀ルモノナリト台人ノ亞片ヲ好ム内地人ノ酒ニ於ケルヨリモ甚シ其取締ノ困難ニシテ苦情ノ多ク怪心ニ足テス台中ノ吳蘭旗ハ亞片ノ嚴禁ヲ以テ台湾施政ニ大急務ノ一

トナセリ嚴禁説ヲ抱クモノ我一行ハ氏ニ於テ總ニ一人ヲ
得タリ

霧峯庄ノ林紹堂ハ曰族林允卿ト共ニ台中縣ノ富豪ニシテ
共ニ資産百万ト称シ声望吳蘭旗ノ上ニ在リ氏ハ並テ
シ折衷説ヲ抱キ其未ダ曾テ並片ヲ喫セサル年少者ニ對シ
テ之ヲ嚴禁シ巴ニ喫スルモノニ對シテハ分量ヲ限リテ許
可スヘシト其他林紹堂ト同一ノ折衷説ヲ抱クモノ多ク
シト至トモ其取締法ニ関シテハ何等ノ意見モナカリキ
林紹堂又曰ク余昨年東京ニ赴クノ日ヨリ試ミニ並片ヲ喫
セサリシニ滯来身体健康ヲ失シ吐血數回ニ至ル或ハ並片
ヲ廢シタルニ基ツクニ恐レ復タ之ヲ服用スト

第七 尤モラシキ質問

台人ノ質問ハ多ク幼稚ニシテ内地人ニ比スレハ文化ノ懸
絶セルヲ如ク足ル李春生曰ク台人土地ヲ所有スルモノ
アリ其地下ニ炭派アリ之ヲ採掘スルハ其人ノ自由ナルハ

シ然ルニ新政府ハ自ラ其採掘權アリト稱シテ之ヲ其人ニ
与ヘス他ニ採掘ニ願フモノアレハ却リテ之ヲ許可スルニ
至ルト而シテ氏ハ之ヲ以テ土匪蜂起ノ原因中ニ算シタリ
是レ台人質問中ノ上乗ナルモノ其他ノ如キハ推シテ知ル
ヘシ姑ク記シテ台人ノ智識ノ程度ヲ知ルノ資トナス

第八 旅中最も不快ヲ感シタル事

言語ノ一致ハ台湾施政上最も必要ニテ台人ノ我施政ヲ誤
解スルノ原因主トシテ茲ニ在リト至トモ内地人ノ台語ヲ
使用スルモノ曰々ニ多キヲ加アルニ及シ台人ノ日本語ヲ
解スルモノ罕シナルハ奇トシテハ是レ言語ノ上ニ於テ
内地人却リテ台湾化セラレテ台人ノ日本化セサル明証ナ
リ台湾ニシテ我殖民地タラバ言語ノ異同深ク尙テ須キ
スト至トモ巴ニ編入シテ帝國ノ一部タリ台人ヲシテ日本
語ニ化セシムルノ要ナカラレヤ
台人ノ雜貨商若クハ車夫幫夫ノ末ニ至ル迄其花卷トスル

内地人名
台湾化

所主トシテ内地人ニ在リ而カモ彼等ハ頑トシテ日語ヲ學
ブヲ爲サズ却リテ内地人ヲシテ巴ムヲ得ス勉強シテ台語
ヲ學ハシムルニ至ル
台人ノ國語學校ヲ卒業スルモノヲ以テ縣廳以下ニ奉職セ
シメタルハ独リ施政ヲ敏快ナラシムルニ於テ必要ナルノ
ミナラス亦日語ヲ普及セシムルノ一獎勵法ナリ然レトモ
内地人ニシテ皆自重シ台人ヲシテ勉メテ日語ヲ學ブノ巴
ムヲ得サルニ出テシムルニアラサレハ内地人却リテ台湾
化セラル、ノ日アラレカ

第九 台湾ノ資産家

台湾ノ資産家ト稱スルモノハ多ク田園及山林ヲ所有シ純
然タル商賈ニシテ其富數十萬圓ニ上ルモノ罕レナリ林維
淳ノ外百万内外ヲ以テ稱セラル、モノ台中縣ニ於テ林紹
堂林允卿吳鸞旗蔡蓮舫アリ台南縣ニ陳順和アリ陳順和ハ
日本何ヤノ砂糖製造ヲ業トシ資本ハ數名ノ組合ニ屬スル

ヲ以テ其私有ノ資産或ハ四五十萬圓ヲ下ラサルヘシト云
フ右數名中林氏最モ山林ニ富リ現ニ藤田住友ニ式ト樟
旺組合業ニ従事シ其所有スル所ノ樟旺山ハ長サ十八里ニ
達スト云フ台湾財産家朝アリ別ニ表トス

第十 華港ノ事

台湾ノ外國貿易ハ昨年ニ於テ輸出輸入ノ總額ニ千萬圓ニ
上ホリ第一位ヲ台メタルハ淡水港ニシテ其貿易額千二百
萬圓次ハ安平港ニシテ四百五十萬圓其次ハ鹿港ノ百四十
萬圓其次ハ打狗ノ六十八萬圓其次ハ旧港ノ三十萬圓其
次ハ基隆ノ二十萬圓トス其他貿易港少ナカラスト至ヒ
多クハジャンク船ノ出入アルニ過キス
台湾ニハ千噸以上ノ船舶ヲ安全ニ碇泊シ得ヘキ良港ナシ
我一行ハ基隆淡水打狗安平ノ四港ニ出入シ又彰化ヨリ迂
回シテ鹿港ヲ一見シ到ル處稅関及貿易商ニ就キテ其貿易
ノ現状及船舶出入ノ便否ヲ略知スルヲ得タリ

鳳山ヲ距ル三里ニシテ打狗港アリ台南ヲ距ル一里ニシテ
 安平港アリ台南ハ南部台湾ノ最大都會ニシテ且ツ砂糖ノ
 支那香港ニ輸出スルモノ一目此地ニ集中ス之ニ又シテ打
 狗港ハ日本向砂糖ノ輸出アルノミニテ其他ハ鳳山ノ消費
 地ヲ扣ユルノミナレハ現今ニ在リテ安平港ノ繁栄遠ク打
 狗港ノ上ニ在リト垂トモ安平港ハ港ノ名アリテ其実ナク
 沿岸皆遠浅ニシテ千噸許ノ船舶ハ遠ク二三哩ノ外ニ碇泊
 シ風波起レハ難ク澎湖島ニ避クルヲ常トス打狗港ハ三面
 山ニ負ヒ風波ヲ避クルニ足ルモ港口狭クシテ潮流急ナリ
 且ツ湾内水浅クシテ大船ヲ撃クニ便ナラス汽船ノ此港ニ
 寄ルモノ亦遠ク一里以外ニ碇泊スルコト安平ニ同シク風
 波ヲ澎湖島ニ避クルモ亦同シ殊ニ清佛戦争ニ際シ併艦ノ
 襲撃ヲ受ヘテ其港口ヲ塞キタルヲ以テ左ナキタニ狹隘ノ
 港口一層ノ狭キヲ加ヘタリト云フ
 台湾縦貫鉄道ノ南端ハ打狗港附近ノ地ニ在リ鉄道一タビ

落成スルトキハ安平ノ繁盛打狗ニ移ルコト必然ナリ打狗
 港改築詭ニニアリ一ハ港口ヲ廣クシ且ツ港内ヲ浚深シテ
 大船ノ出入ニ便ナラシメントスルモノ他ノ一ハ別ニ地ヲ
 割リテ新タニ南方ニ港口ヲ作ラントスルモノ是レナリ鉄
 道ノ布設ト共ニ打狗築港ハ台湾ノ發達ニ於テ將來必要ノ
 一大工事ナルヘシ
 南北ニ教流ノ大河ヲ扣ユルノ台中縣ニトリテ鹿港ハ唯一
 ノ物産集散地ニシテ台中ノ米穀ハ鹿港ニ依リテ支那ニ輸
 出セラル然レトモ清政チノ如クニシテ風波ヲ避クルニ由
 ナク且ツ浅瀬多キコト安平ノ上ニアリ是レ安平ニハ外國
 汽船ノ寄港スレトモ鹿港ノ貿易ハ尽クシヤンク船ニ係リ
 曾テ外國船ノ寄港セサル所以ノ一原因ナリ唯鹿港ノ台湾
 ニ必要ナルヲ知ルニ足ルノ一話アリ曾テ佛將タルベコ
 鴻諸港ニ封鎖スルヤ自テ以テ為ラク台湾守將ノ降ヲ乞フコ
 ト期シテ待ツヘシト而シテ守將能ク久シキヲ持シテ屈セ

淡水

之邊ニクルベシヲシテ憤死セシメタルモノ「クルベシ」將軍
 ノ鹿港封鎖ヲ遺却シタルニ由ルトホフ
 淡水ハ台湾ノ最大貿易港ナリ其港灣狭ク且ツ浅クシテ大
 船ヲ容ル、能ハサルニ拘ルニシテ第一貿易港タルヲ得
 ルモノ一ニ大稻埕アルカ爲メニシテ而シテ大稻埕ノ台湾
 貿易就中製茶貿易ノ中心タリ金融ノ中心タルヲ得ルモノ
 亦淡水河ノ水深クシテ舟楫容易ニ淡水港ニ通スルノ便ア
 ルニ由ル大稻埕ハ台北城外ノ淡水河畔ニ在リ
 台湾ニ於テ修築ニ加ヘテ以テ大船ノ出入ニ便ニスルニ得
 ヘキモノ独リ基隆港アルノニ唯北風一タヒ吹ケル湾内波
 高クシテ貨物ノ積卸極メテ便ナラス故ニ台湾ト内地トノ
 關係ヲ繁劇ナラシムル所以ニ於テ厦門ノ繁栄ヲ神戸若ク
 ハ横濱ニ移サントスルニ於テ基隆港ハ遠ニ巴ムヘカテ
 ナル字是レ台湾官民ノ目下此計畫ニ熱心スル所以ニシテ
 其調査ヲ公ニスル速キニアテサルベシ

基隆

運河ノ南

基隆築港成ルノ日ト至トモ台湾貿易ノ中心タル大稻埕ヲ
 聯絡スルニアラサレハ以テ基隆ノ繁栄ヲ期スヘカラス茲
 ニ於テ基隆港ヨリ里許ノ運河ヲ開鑿シテ基隆河ト相通
 シタルハ、孰アリ基隆河ハ淡水河ニ注クモノニシテ此計
 畫成ルトキハ大稻埕ト基隆トノ間ニ舟楫ヲ通スルヲ得ベ
 シ
 台湾總輸出價格ノ半強以上ヲ占ムル所ノ製茶ハ一タビ淡
 水ヨリ厦門ニ入り厦門ヨリ香港ヲ經テ而シテ後ニ英國若
 シハ歐洲諸國ニ輸出セラル基隆ノ築港一タヒ成ルノ日始
 ノテ製茶貿易多クハ之ニ邦人ノ手ニ握ルヲ得ヘキ手現ニ
 茶業ニ從事スルモノ曰ク台湾茶ヲ改良ニ輸出スルニ當リ
 之ニ厦門ヨリスルト横濱ヨリスルトニ於テ横濱ノ方ハ百
 斤ニ付一四ノ失當多シ是レ基隆ニ於ケル荷積ノ不便ナル
 ト倉敷ノ設備ナキニ由ルト
 基隆ニ於ケル倉敷不便ノ苦情ハ商人ノ背シク唱フル所ナ

リ内地ニ於ケル汽船業者曰ク基隆華港ノ計畫在リテ確
定セザルニ以テ倉庫ヲ建設スルヲ得ズ落ノ現形ニ由リテ
倉庫ヲ建設スルモ他日華港ニ降シ沿岸理三等ノ事アルト
キハ折角新築ノ倉庫モ何ノ用ヲ為サズ徒ラニ損失ヲ拓ク
ノ恐レアルナリト台湾貿易ノ依然トシテ洋清人ノ手ニ
属シ対岸ノ厦門ニ以テ其中心トナス所以必竟スルニ良港
ナキニ由ル

第十一 鉄道布設ノ事

台湾内地ヲ旅行スルニ至リテ台湾縦貫鉄道布設ノ急務ナ
ルヲ感スルコト益々切ナリ盜賊横行スルモ警察ノ乏レニ
處スル故快ク欠クカ如キ内地人ノ数多ノ日子ト経費ト様
行ノ危険トヲ恐レテ内地ニ入ルヲ敢テセザルカ如キ貨幣
ノ運送ニ巨費ヲ要シテ金融ノ滞滯スルカ如キ貨物一處ニ
停滞シテ集散便ナラズ例ハ台中ニ於テ内地白米一石二
十八圓ノ價スルカ如キ將ク守備隊ノ行動自由トラスルニ

戦闘力ヲ集中スルノ機ヲ失シ之レカ爲ノニ土匪ノ誅戮未
ク其功ヲ全フスルニ至ラザルカ如キ一ニ皆道路交通ノ不
便ニ由テザルナシ若シ縦貫線ニシテ一夕ニ成ランカ或
ハ現時守備隊ノ半ヲ減スルモ其効力却リテ現時ニ倍スハ
ク又獨リ軍需品ノ運送費ノミニニテスラ巨額ノ節減ヲ為ス
ヲ得ヘシ況シテ其ノ殖産上ニ及ボス知果ニ於テオヤ
足一クヒ台湾内地ヲ踏ムトキハ何人モ縦貫鉄道ノ急務ヲ
説クガナルハナシ唯其果シテ幾何ノ経費ヲ要シ其年々ノ収
支幾何ニ達スヘキヤニ至リテハ未ク精確ノ調査アルヲ聞
カス

沿道概シテ平坦ナレハ縦貫線ヲ布設スルニ於テ殆ト墜
道ヲ開鑿スル必要ニ見ス之レアリトスルモ一二小墜道ヲ
開鑿スルニ過キザルヘシ其最モ困難ヲ感シ殆ト算定ス
ヘカテザル巨費ヲ要スルハ無敵ノ溪流ニ架スル橋梁等
リ其大ナルモノニ至リテハ三叉溪大甲溪北斗溪濁水溪等

文溪寺アリ堤防ナク河身ナク出水ニ降スレハ巨巖大石敷
下ニテ橋梁ヲ支フヘカヲナルアリ河底泥深クシテ橋礎ヲ
据ヘ難キアリ河幅狭キモ千二百メートルニ達シ其廣キハ
里許ニ至ル

最モ布設ノ急施ヲ欲クハ台湾ノ軍人ナリ而カモ終橋梁ノ
事ニ至レハ其經費ノ多キヲ憚ラサルナシ或ハ工兵士官曰
ク曰シテナクシハ河溪ノ兩岸ニ停車場ヲ設テ始テ橋梁
ヲ架セサル可ナリト蓋シ事宜ニ適スルニ似タリ

台人ノ
組織

台人ハ基隆新竹間ニ於テ鉄道ノ便ナルヲ實驗シテ其
線ノ布設ヲ希望スト至トモ向テ此鉄道全社ノ採主ヲ
シコトヲ以テアレハ脚踏シテ曖昧ノ言ヲ為サバハナシ
李春生曰ク台人ハ皆自ラ營業シ罕ニ組合業ヲ為スニ選キ
ス全社組織ニ於テハ絶エラナキ所台人恐ラクハ全社組織
ノ其収益多クハキヲ信セサルヲ以テ之ニ外主トナル
ヲ欲マサルハ且ツ台湾鉄道工事ハ少クモ全通マテハ四

五年ヲ費スヘク全通後四五年間ハ三四条ノ収益アルニ選
キス其一割ヲ配キスルハ恐クハ三十年ノ後ニアラシキ一
割ノ収益アルハハ台人中少シク投資スルモノアラシキ
台中縣ハ其南北ニ各ニ教流ノ大河ヲ和ハクテ故ニ台中ノ
吳鸞旗ノ如キハ鉄道ヲ至リテ橋梁架設ノ難キヲ欲キ候
令人工ノ少ク極メニ之ヲ架設スルモ直ニ水流ノ陥落スル
所トナリ鉄道業ノ到底収支相償ハサルヲ固信セリ且ツ曰
ク台湾ノ官人亦橋梁架設ニ至難ヲ欲ト氏ハ絶エテ鉄道
ニ投資スルノ意ナシ
林紹堂ハニ氏ニ比スレハ鉄道ニ関シ稍々時務ヲ知ルノ言
ヲ為セリ曰ク台湾鉄道若クハ台湾銀行創立ノ事ニ関シテ
ハ直シテ先ツ其ノ台湾ノ啓開ニ裨益ニシテ且ツ相害ノ利
益アルヲ廣ク台人ニ知ラシメ信セシムル措置ニ出ツハシ
則チ新聞紙ヲ以テ其事業ノ順序方法及將來ノ収支ヲ普知
セシムルヲ急務トス之ニ

又曰ク此ノ如キ大事業ハ先ツ林維源ヲシテ同意セシノ氏
ヲシテ率先唱導セシノハ台人響応シテ投資ヲ辞セサルハ
シ情ニラタム氏今マ台湾ヲ去リテ厦門ニ長嘯シ再来ノ意
ナキカ如シ然レトモ鉄道事業ニシテ其收支相償フノ正算
アルニ於テハ余ハ吳鸞旗等ト熟議シ率先シテ多少ノ資ヲ
投セシト
思フニ台人ヲシテ鉄道会社ノ株主タラシメ投資ノ幸ハ
台人ニ出サレノシトスルハ百年河清ヲ待ツオ如シ

第十ニ 台湾ノ金融機關

台湾ノ外國貿易ニハ独立ノ金融機關ナシ台北大稻埕ニハ
香港上海銀行及「デヤードン」マゼソンノ代理店等四五ノ銀
行業ヲ営ムモノアリト並トモ何レモ茶棧駐ノ取引或ハ流
船業保險業等ノ主業ヲ有シテ其傍ヲ銀行業ヲ兼営スルニ
過キサルモノニシテ其主業ニ便宜ナルニ於テハ手取賣買
ヲ為セトモ為替ノ出合應シケレハ之ヲ賣買セス台人ノ銀

行業ヲ管ムモノ謙裕號怡悅號等アリ謙裕ハ林維源ノ監督
ニ属シ厦門ニ連絡ヲ有シ最モ勢力アリト並トモ土地抵当
貸若クハ製茶時節ニ於テ山方ニ前貸スル等ニ過キス
日本人ニ成レルモノ一中立銀行アリト並トモ其業務微
トシテ振入ス僅ニ内地トノ為替取組アルニ過キサルカ如
シ内地銀行券ニシテ台湾ニ支店ヲ設主セントスルモノナ
キニアテサレトモ他日台湾銀行ノ設主セラルノ日其能
ク之ト競争シ難キヲ憚リテ躊躇スルノ状アリ

第十三 台湾ノ外國貿易

台湾ノ外國貿易ハ輸出超過ヲ例トシ昨年ニ於テハ輸出千
ニ百万圓輸入八百万圓大凡四百萬圓ノ輸出超過ニシテ流
ツテ統計表ニ於テハ銀貨及地銀ノ輸入超過ヲ未タセリ
貨物ノ輸出超過スルコト年々此ノ如キニモ相ハラス台湾
ニ於テ銀貨多キニ過ラルカ如キ狀況ナキモノハ何ッヤ其
理由左ノ如シ

一、台湾ノ西岸ハ到ル處支那船ノ出入セサルナシ徒テ亞
 片其他ノ密輸入多シ
 二、台人ノ概シテ銀ヲ酷愛シ之ヲ土中ニ埋藏スルノ習慣
 アリ台人或ハ之ヲ解シテ曰ク土中ニ埋藏ストハ土地
 ヲ購置シ居クハ資本ヲ土地ニ投下スルノ義ニシテ其
 際土中ニ埋没スルニアラスト台人ノ富豪土地ヲ購買
 スルヲ以テ唯一ノ資本投下ノ利途トナスノ事實ニ徴
 スレハ此說或ハ可ナルカ如シト至トモ中以下ノ台人
 ニ在リテハ銀貨銀塊ヲ埋藏スルモノ多シト云フ蓋シ
 他ニ財産ノ安全ヲ謀ルノ道トキニ由ルナルハシ
 一、台人ノ商業ニ從事スルモノハ勿論移住後教代ヲ蒙リ
 タル募農ト至トモ廈門泉州漳州等出身ノ地ニ本宅ヲ
 有スルモノアリ其名ハ台人ナレトモ實ハ支那人ナリ
 其營業ノ収益ヲ支那ニ吸収スル所以ナリ
 一、殊ニ台湾ノ我版圖ニ属セシ以來人心未タ靖ニ安セス

土地ヲ所有シ居住スルモノト至レモ金銀重寶ヲ支那
 ノ新賦ニ依拠シタルモノナカラス
 一、台湾ニハ泉州漳州等ノ出稼人多シ此等ノ労働者ハ年
 々各ニ數十金若クハ数百金ヲ携帶シテ故郷ニ帰ル
 外國貿易者以外ニ此數原因アリ銀貨ノ欠乏スル所以ナリ
 第十四 貨幣流通ノ現況
 台湾ニ於テハ民間ノ取引スル通貨ニ數種アリ兌換券國銀
 元券ノ刻印付同銀即チ粗龍ト稱スルモノ墨銀即チ鷹銀其
 他淡水府即チ粗銀ト稱シ墨銀英銀西班牙銀ノ度量ナキモ
 ノ是ナリ
 我一行ノ旅行中ノ實驗ニ依ルニ兌換券ハ昨年来大ニ信用
 ヲ増シ株中ノ支拂ニ於テ授受上ノ困難ヲ見ナリシト至ト
 モ台人今尚ホ兌換券ヨリモ銀貨ヲ好ムノ風アリ僻地ノ地
 ニ入ルニ及シテ此風漸ク多クテ現ニ台北附近ノ菓茶
 地ト至テモ其取引ニハ銀貨ヲ以テスルニマテサレハ買出

台中、
台南

シニ不使ラ感シ内地人、製茶貿易ニ従事スルモノ明春ノ
買出シニモ銀貨ヲ以テスルノ豫算ヲ主テツ、アリキ
九月十月頃台北ニ於テハ厦門香港ノ餘波ヲ受ケテ兌換券一
時大ニ騰貴シタリト至トモ台中ニ於テハ唐テ此影響ヲ受
ケサレモノ、如ク我一行ノ台中ニ至リテ十月末ニ於テ
ハ兌換券千圓ニ対スル兩替相場ハ左ノ如クナリシ
圓銀 九百九十五枚
墨銀 九百七十八枚
粗銀 一千枚
台中ノ吳膏旗通貨ノ終ニ於テ曰ク此地方多クハ、チヨツプ
下井ニ通用スト至トモ千圓ニ千圓、取引キニ猶キ一文銅
錢ヲ用ユルコト少ムラス補助貨ノ欠乏ハ一般ノ苦シ所ナ
レハ可成ハ五万圓内外ノ補助銀貨ヲ散センコトヲ望ムト
台中ヲ距ル七八里鹿港ニ至レハ補助貨過剩ヲ告ケテ一圓
ニ三錢ノ打歩アリ其通用円滑ナラス

台湾ヲ通シテ概シテ補助貨ハ信用厚カラズ殊ニ白銅ヲ嫌
フノ風アリ独リ吳膏旗ニ於テ補助貨欠乏ノ説ヲ聞クモノ
蓋シ台中ニ特別ノ事情アルニ因ルナラシカ
林紹堂ハ台中ヲ距ル三里許ノ村落ニ在リ曰ク兌換券ハ昨
秋ニ於テ僅ニ七十五錢ノ價格アリシニ退キサレトモ今ヤ
漸ク九十五錢トナレリ而シテ、チヨツプ下井ノ度量アルモ
ノニ対シ日本圓銀ハ十數文ノ打歩アリト我圓銀ノ金貨ト
交換シ得ハキコトハ惜キテ向ハス單ニ銀分ノ多寡ヲ以テ
其價ヲ定ムルニ退キサルモノ概シテ此ノ如シ
台南ハ台北ニ亞クノ貿易港ニシテ厦門香港ノ影響ヲ受
ケ兌換券ノ信用乏シキニアラスト至トモ數里ヲ距テ、村
落ニ至レハ主トシテチヨツプ下井ノ通用スルヲ見ルノミ
我圓銀亦等シク信用アリト至トモ多ク租稅トシテ上納シ
今民間ニ存スルコト少ナシ蓋シ台湾本支金庫ノ成ルヘク
銀貨支拂ヲ為サバニ由ル

第十五

台北市場ニ於ケル貨幣兩替相場ノ事
普通ノ推論ニ以ラスレハ台湾ノ通貨中價格ノ最モ高キハ
兌換券ニシテ完全ノ我國銀之ニ亞キ其次ハ鷹銀其次ハ我
粗龍其次ハ粗銀タルヘキ筈ナリ

香港

今台北ノ兩替相場ヲ述フルニ先ク香港ノ相場ヲ一言ス
ルノ必要アリ金貨制度實施前ニ於テ銀價一時二十三片台
ニ下落スルヤ香港其他東洋諸港ニ於テ我兌換券及圓銀買
入ノ事流行シ香港ニ於テ我兌換券ハ英銀ニ比シ十五錢ノ
アレミユルニ生シタルコトアリ而シテ銀價ノ再ヒ二十
六片台ニ上ルヤ英銀千ニ對シ或ハ九十或ハ八十或ハ四十
十ノアレミユルニトナリ我一行ノ香港ニ在リシ十一月下
旬ニハ千ニ對シ僅ニ三十ノアレミユルニトナリ退キナリキ
金貨相場ニ比シ我國銀ノアレミユルニ此ノ如ク少ナキモ
ノハ一ハ波ノ叢キニ圓銀買入ヲ計リタルモノ銀貨ノ騰貴
二十三日ヨリ二十六片名ニシタルカ為メニ換頭ヲ招キタ

ルト東洋諸港ニ我國銀ノ流通スルモノ割合ニ少額ニシテ
殆ント營業トスハキ程ノ賣買ナキトニ由ルナルヘシ
之レト同シク台北市場ニ於テモ金貨制度實施ノ十月一日
ヨリ十日間ハ我國銀千圓ニ對シ

兌換券ハ

九百九十圓ヨリ九百九十五圓ヲ往來シ

鷹銀ハ

千二十五枚ヨリ千十五枚ヲ往來シ

粗龍

千二十枚ヨリ千三十枚ヲ往來シ

粗銀

千五十五枚ヨリ千六十五枚ヲ往來シ

台北相場
一表

即チ兌換券尤モ高價ヲ維持シタリト云トモ十月中旬ヨリ
其勢漸ク一表シテ下旬ニ於テハ鷹銀尤モ騰貴シテ我國
銀千ニ對スル九百八十ナリ兌換券下落シテ圓銀千ニ對
スル千の十五ナリ十一月中旬ニ於テ其勢漸ク一定シ我

圓銀千ニ對シ

兌換券

千の五

鷹銀

千

粗銀 千〇十五
粗銀 千〇五十

ノ相場ドナレリ
台湾ニハ固ヨリ全銀相場所ト称ス、キモノナシ前記ノ相
場ハ謙裕號、取引スル所ニ係レリ謙裕ノ外ニ怡院號其他
教店アレトモ其相場正々ニシテ一ナラズ其何レカ正確ナ
ルヲ知ラズトモ其兩替相場ノ大勢ハ右ノ如シト見做
シテ可ナリ思フニ台北ノ兩替相場ハ主トシテ厦門ノ相場
ニ支配セラレ厦門ノ相場ハ香港ニ支配セラレ、ヲ以テ香
港ニ於ケル我國銀相場ノ一旦騰貴シテ再々低落シタルト
同時ニ台北ノ相場モ亦兌換券及圓銀ノ低落ヲ来シタルヲ
見ルト至トモ台北ノ相場ハ亦別ニ特別ノ事情ニ依リテ支
配セラレ、コトアリ蓋シ台湾ノ貿易ハ春時ニ於テ輸入超
過ニシテ製茶輸出ノ夏期ニ於テハ巨額ノ輸出超過ヲ来タ
レ之レカ為ノニ鷹銀粗龍粗銀寺ノ益歛甚クアレハナリ

全貨引換ノ便宜上ヨリ見レム理論上兌換券最モ高價ヲ推
持スヘクシテ其実前記ノ如ク圓銀ニ対シテ多少ノ下落ヲ示
スモノハ畢竟スルニ兌換券引換ヲ停止シタルノ結果ナル
ハシ未タ最近ノ報導ニ接セスト至トモ台湾目下ノ相場ハ
基銀ヲ最高價トシ次ハ我國銀其次ハ兌換券其次ハ粗龍其
次ハ粗銀ナルヘシ

第十六 刻印付一圓銀ノ事

我一行ノ台湾ニ在ルヤ僅ニ其引換相場ヲ千〇三十七ニ定
メタリトノ電報ニ接シタルノミニシテ未タ其実施ノ尋況
ヲ目撃スルニ及ハサリキ然レモ前項ニ畧記シタル台湾當
時ノ兩替相場ニ照ラシテ台人ノ新圓銀引換ヲ望ムモノ多
カルヘキヲ想像シタリキ
後報ニ依レハ台人果シテ刻印一圓銀ヲ希望シテ皆兌換券
若クハ圓銀トノ交換ヲ乞ヒ或ハ千〇三十六枚換ヲ以テ甘
セント申出ツルモノアリ現ニ台人中總督府ノ支松命令書

買占ラ當ニモノアリト云フ思フニ新旧銀ヨハ独リ政府ノ
仕拂ニ止メス兌換券又ハ四銀トノ交換ヲ許可セム者分ノ
間ハ少ナカラサル金額ヲ流通セシムルヲ得可シ
然レハ刻印一四銀ニ関スル利害得失ノ問題ハ一ニ台湾注
意ノ大方針ニ依リテ岐ルナルヘシ若シ台湾ヲ以テ所謂
ル帝國ノ一部トナシ施クニ漸次内地同様ノ改令ヲ以テセ
ントスルカ一時多少ノ不便ヲ忍ヘム之ニ金貨制度ヲ美施ス
ルコト難カラス而シテ幣制一統ヨリ生スル利益少ナカラ
ス之レニ及シテ一種ノ殖民的施政方針ヲ取ラント欲スル
カ銀貨制度ヲ取ル必スシモ不可ナキニ似タリ

第十七 刻印一四銀ヲ發行スルノ結果

刻印一四銀ニ関シ何人モ誤解シ易キニ其地銀ナルヤ一種
ノ貨幣ナルヤ是ナリ地銀タルニ相違ナレトモ至トモ政府ノ
収支ニ使用スルノ在ニ於テ貨幣ト異ナラス又台湾ヲ通シ
テ其相場ヲ一定シタル在ニ於テ貨幣ト異ナラス例ヘハ台

刻印一四銀
相場

北ニ於テハ兌換券ハチヨツブト比シ積々高價ナレト
台中ヨリ始メトシ台湾ノ中央部ニ至レハチヨツブト却リ
テ高價ヲ維持セリ今夫レ台北ヨリ台中ニ銀貨ヲ輸送スル
ノ経費少クモ千圓ニ付五六十圓ヲ要スヘシ台北ニ於テス
ラ刻印一四銀ヲ千三百七十トナスニ低價ニ過クルノ事莫ナ
ルニ際シ兌換券ト同類ヲ有スヘキ台中ニ於テモ同シク千
三百七十ヲ以テ交換シ加フルニ是運搬費ヲ政府ノ負担トセ
リ其損失ハ姑ク措キ政府自ラ招クト刻印一四銀ヲ以テ台
湾ノ貨幣トナスノ觀アリ思フニ政府暫ク此刻印付一四銀
券行ノ議ヲ中止シ他日台湾銀行設立ノ時ヲ待テ日行本支
店(即チ台湾本支店)ヲシテ刻印一四銀ノ賣買ヲ支員ハシ
ムル事ハ此誤解ヲ答ルモノナクシテ而オモ幣制統一ノ
上ニ好果アリシナラン

銀貨下
相場

台湾ノ収稅事務ニ先事スルモノヲテ徵稅ノ意ノ如クナ
ラサル原因ヲ説キテ曰ク台人少クチヨツブト非テ野藏ス

金貨制度
の概況

ルモ國銀又ハ兌換券ヲ所持セス而カシテ政府ハ独リ兌換券又ハ國銀ヲ領収スルモチヨツド并ハ一切之ヲ受テカ
ルヲ法トス是レ徵稅ノ因推ナル所以ナリト此說ニ依レム
刻印一圓銀ノ發行ハ徵稅上大ニ便宜ヲ與テアルニ似クリト
蓋トモ若シ千三十セ、割合ヲ以テ得タル刻印一圓銀ノ更
ニ下落シテ千四十若クハ其以上ニ達スルトキハ台人必ス
政府ヲ怨シテ共フルコト少クシテ取ル所多シトナシ其
流通上ニ一頓挫ヲ來サ、ルヲ保セス
抑、目下台灣ニ於テ銀價ノ割合ニ高キハ一時ノ現象ニシ
テ漸ク世界ノ相場ニ支配セラレ兌換券最モ高價ヲ呼ブノ
時機到來スヘク且ツ前段ノ事情ニ依リ刻印一圓銀ノ流通
円滑ヨク久クノ日アラン此方面ヨリ觀察スルトキハ刻印一
圓銀ノ發行ハ寧ロ完全ナル金貨制度ノ実施ヲ促カスノ結
果トナルヘシ
然レトモ台灣ニハ、モニー、オフ、アツ、カウ、ン、トナルモノナシ

物價
の概況

政府ノ收支及台灣ニ在ル内地人ト内地トノ取引ニハ圓ヲ
稱スレトモ台灣ノ外國貿易ハ所謂ル「ナヨツ」ト稱用ユ
而カモ茶貿易ニハ廈門「テール」ヲ使用シ砂糖ニハ廣東「テ
ル」ヲ使用スルヨリ見レハ價格ノ標準ナルヘキ一定ノ貨幣
ナシトシテ可ナルカ如シ
若シ刻印一圓銀ニシテ大ニ流通スルニ至ラニ才台灣ノ外
國貿易ニモ使用セラレ又茶砂糖樟腦等ノ買入ヲ始メトシ
台灣内地ノ取引ニモ使用セラレテ遂ニ台灣ノ物價ハ刻印
一圓銀ニ以テ標準トナシ即チ銀價ノ變動ハ毎ニ物價ヲ昂
低セシムル日アラシ此推測ニ依レハ台灣ト内地トノ貿易
ハ阻害セラレテ清國トノ關係益ニ親密ヲ加ヘ、殖民地ト
シテハ不可ナシ台灣ヲ化シテ帝國ノ一部トナシント欲セ
ハ刻印一圓銀ノ事大ニ熟慮ヲ要スルニ似タリ
第十八 新金貨ノ事
我一行ノ台灣ニ在ルヤ金貨制度實施ノ十月一日ヲ距ルコ

ト一ヶ月ニ滿タス迄ツラ其民間ノ取引キニ兌換セラル
ノ状況如何ヲ聞カスト重トモ内地人ノ新夕ニ台湾ニ航ス
ルモノ、中ニ之ヲ携帶スルモノアリ鉄道収入中ニ全貨ア
リシヲ見タリ一行ハ見本トシテ全貨ヲ携帶シ毎ニ台人ニ
示シテ其嗜好如何ヲ知ルコトヲ勉メタリ李春生ハ貨幣ヲ
ニ於テ全貨論ヲ主張シ曰ク貨幣ノ流通一ニ政府ノ信用ニ
依ルカ故ニ兌換券及ヒ全貨ノ二者ヲ限リテ台湾ノ通貨ト
ナスヘシ巴ニ日本帝國ノ一部タリ豈ニ内地ト幣制ヲ異ニ
スルヲ要セシヤト其說輕佻ニ失スルカ如シ台南ノ蔡夢羅
亦熱心全貨論ヲ主張シ刻印付一圖録ノ相場昂低シテ一定
セサルヨリ生スルノ不安心ヲ説クコト切ナリ台中ノ林紹
堂ハ必スシモ全貨制度ノ実施ヲ非トセス唯曰ク台人銀貨
ノ眞贋ヲ鑑識スルニ切ミナレトモ全貨ノ眞贋ヲ鑑別スル
ニ價レズ全貨流通ノ事之レガ爲メニ少クノ不便ヲ未ヤシ
且ツ台人ノ生計ノ程度ノ低キ之ニ伴フ不便モアルヘシト

依リテ五十銭以下ノ補助貨ヲ以テ其不便ヲ補フニ足ルヤ
否マヲ問フ或ハ可ナシト答フルノミ吳雲旗ハ全貨制度
實施ノ便否ヲ詰ラズ一行携フル所ノ全貨ヲ手ツカシ秤量
シテ曰ク日本政府何故ニ全貨ノ價格ヲ低廉ニスルヤ香港
ノ相場ニ現ニ一匁ニ付五圓七銭ナリ云々銀價ヲ以テ標準
トスル台人ニ在リテ此詰アル怪シニ足ラズ一行ノ中向
フモノアリ台人何故ニ銀ヲ貴買スルヤト殆ント解セサル
モノ、如シ
若シ一圓兌換券ヲ漸次廢シテ五圓ヲ最モ本位貨トナスト
キハ台人ノ生計ノ程度ノ低キ或ハ全貨制度ヲ實施シ易カ
ラサラン然レトモ台人種リ銀ヲ好シテ金ヲ好マサルニア
ラス全貨銀ニ比シテ更ニ大ニ珍愛スヘキヲ知ルヤ論ナシ
此矣ニ於テハ全貨ノ流通圖滑ヲ欠クモノニアラス
台湾幣制ノ事ノ詳カナル其他内外貿易上及金融上台湾銀
行ノ設立ヲ急務トスルカ如キニ至リテハ更ニ齋ス所ノ材

料 = 據り別 = 記述スルノ日アル、シ以上畧述シタル所
 殊中冬々、間 = 成レル日記ノ抄録 = 過キス

此表中ノ資産額ハ或ハ旧政府時代ノ調査ニ係ルモノ
 アリ或ハ我通譯官等ノ實地ニ就キ其地ノ人民ノ評判
 ヲ斟酌シテ概算ニタルアリ必スシテ精確ナラス耶カ
 台湾人ノ貧富ノ程度ヲ知ルノ参考トナスニ過キス

所	在	姓	名	財產種別	頁	額
滬尾公館口街	王	審	高	四萬圓以上		
小基隆舊庄約首	曾	石	嶽	四萬圓以上		
八里全堡恩仔庄約首	李	泰	園	五萬圓弱		
以上淡水支廳管内						
新竹北門外水田街	鄭恒利	鄭	拱辰	叁萬圓以上(存銀)		
全 北門外水田後街	鄭恒升	鄭	謹齊	壹萬圓以上(存銀)		
全 北門米市街	李陵茂	李	八合	貳萬圓以上(存銀)		
全 北門大街	魏民安	魏	葆謙	壹萬圓以上(存銀)		
全 全	葉源遠	葉	文津	壹萬圓以上(存銀)		
全 全	杜玉記	杜	漢淮	叁萬圓以上(存銀)		

全	北門米市街	魏益記	田園及山林	壹萬圓以上(存銀)
全	東門大爺街	周其昌	田園及山林	貳萬圓以上(存銀)
全	北門外水田庄	吳隆住	田園及山林	壹萬圓以上(存銀)
		吳希唐	田園及山林	壹萬圓以上(存銀)

以上新竹支廳管內

一堡南苗栗埔尾既戶	黃運添	田園及樟腦商業	六萬圓以上
二堡香霄街既戶	湯登漢	田園及什貨商業	六萬圓以上
二堡苑裡街尾既戶	鄭照	田園及薪炭業什貨	五萬圓以上
三堡大甲街既戶	王洋水	田園	五萬圓以上

以上三堡老萬里管內
老萬里二千四百五十

以上苗栗支廳管內

藍興堡新庄仔庄	吳高旂	八拾萬圓
下橋庄	林金江	拾貳萬圓
全	林坤旺	五萬圓
全	林枝	五萬圓
全	黃賜山	八萬圓以上

全	太平庄	林鳳鳴	拾萬圓
全	茄羅堡新霧峯庄	林允鄉	八拾萬圓
全	棟東上堡三角仔庄	呂汝玉	貳拾萬圓
全	社口庄	林振芳	貳拾萬圓
全	全	林文燦	貳拾萬圓
全	樓仔口庄	張五常	五萬圓
全	溝仔坑庄	魏和生	七萬圓
全	棟東下堡二份埔庄	賴長榮	拾五萬圓
全	下礦山庄	張鵬飛	拾萬圓
全	楓樹脚庄	廖正寶	八萬圓
全	全	張鏡心	六萬圓
全	棟東下堡犁頭店街	賴清標	六萬圓
全	大肚上堡牛罵頭街	蔡運財	八拾萬圓
全	社口庄	楊澄若	五萬圓

大肚中堡拾樓街
全 茄拔庄
大肚下堡洋仔頭左
南北投堡廣善家庄

楊世光 馬
陳世燦 要
蔡燦 瑞
吳廷瑞

四拾萬圓
八萬圓
貳拾萬圓
五萬圓

以上台中縣管轄

鹿港
全 李遂豐
全 李瑞成
全 蔡勝記
全 施益源
全 施合和
全 黃履豐
全 陳慶昌
全 吳昌記
全 吳德功

施長發 田
李遂豐 田
李瑞成 商
蔡勝記 田
施益源 田
施合和 田
黃履豐 田
陳慶昌 田
吳昌記 田
吳德功 田

貳拾萬圓
拾五萬圓
六萬圓
五萬圓
八萬圓
拾五萬圓
五萬圓
貳拾萬圓
拾五萬圓
五萬圓

馬芝堡馬興庄
線東堡滿雅庄

陳培甲 地
阮斐熊 地

田 地
田 地

貳拾萬圓
拾萬圓

以上彰化支廳管內

右後前調查三屬
三分一或其一以上
隱蔽之瓦瓦
現令實高

台南城內下橫街
全 項西河街
全 看西街
全 枋橋頭街
全 總巡官街
全 關帝廟街
全 大埔街
全 北勢街

蔡受熊 田
謝英泰 田
陳邦記 商
吳君聘 田
黃精甫 田
林文賢 田
葉昆山 田
陳森泰 商

田 地
田 地
田 地
田 地
田 地
田 地
田 地
商 資

五萬圓
五萬圓
五萬圓
五六萬圓
五萬圓
八萬圓
六萬圓

以上台南縣管內

大竹里埤城內
全 王福記
全 呂有容
全 簡如衡

王福記 田
呂有容 田
簡如衡 田

拾萬圓
叁萬圓
壹萬圓

港西下里西勢庄 陳 阿 八

實產稅額概由田實ニシテ
高率ノ事ニルニクナリ

壹萬圓

申 城 董 安 成

貳萬圓

以上恒春支廳管内

澳翁島小池角 合益号 呂 豹

雜貨商及農(多屋共)

壹萬圓

媽宮城南 町 益泰号 黃 記

米布雜貨商家屋共

八千五百八十五圓

澳翁島組馬灣鄉 振興号 彭 双

雜貨商家屋共

八千四百圓

媽宮城南 町 興順号 劉 君子

米布雜貨商家屋共

八千四百圓

本島宅脚字 謝 鴻 儀

雜貨商家屋

七千八百圓

澳翁島合恩頭鄉 永成号 楊 鳳 儀

全

七千圓

本島鷓母塢鄉 政 榮

全

五千圓

以上澎湖島廳管内

員堡仔閣力庄 陳 掄 元 田

地 五萬圓

以上宜蘭支廳管内

